

対話での問いかけ

今回の対話では、GIGA スクール構想により ICT 環境の整備が進む小学校の変化をテーマにしました。既に見えつつある期待・不安・問題意識を話題にしながら、下記の問いかけを基に、参加者は考えを深めました。

1人1台の環境下、どうなると良い学校・良い授業といえる？

小学校で ICT 活用が当たり前になる中、中学・高校はどう認識を変えるべきか？

各学齢で発達段階が異なる中、それぞれどのような ICT 活用が望ましいのか？

テーマ設定 背景

急速に進む GIGA スクール構想。多くの小中学校で ICT 環境の整備が進んでいます。環境整備が進んだことにより、「どのようなツールが有効か」「どのくらいの頻度で使っているか」といった議論は増えてきています。では、実際に児童生徒の学びはどのように変わっているのでしょうか？「学習環境整備はあくまで手段で、児童生徒の学びをより良くすることが目的のはずだ」などの問題意識を持ち寄り、対話を進めました。

話題提供 - 二川 佳祐 先生 (東京都内小学校 勤務) -

◆GIGA スクール構想の進展により感じる、変化の芽(期待・不安・問題意識)



【見える化】生徒・教員・保護者全てに、教育活動の可視化が進む。

【教員の学び】ICT 環境を活かすために、学ぶ姿勢がより重要に。

【二極化】学校・教室により ICT 環境の活かし具合が二極化する。

【評価】学習プロセスが可視化されるが、フィードバック手法は検討要。

【低学年】発達段階を踏まえ、低学年で ICT をどう活用すべきか。

【連絡帳・ノート】連絡やノートを取る頻度が減ることをどう捉えるか。

小学生のアウトプット - 二川先生話題提供から -

学習してわかったこと 2
 | なぜしょっぱいの？
 やがて、地球の温度が急激に下がり始めると、ガスの中に含まれていた水蒸気は雲となり、地上に降り注ぐようになりました。こうして約1億年をかけて、大きな水たまり「原始海」が誕生したのです。雨に降った塩素ガスも海に流れ込んだので、原始の海からは塩辛い「原始海」と言われています。

学習してわかったこと 3
 | いつできたの？
 海は大昔、地球は2億歳になった頃に生まれました。今から46億年前の地球には、まだ熱いマグマの海しかなく、空も、水蒸気や二酸化炭素で覆われていました。降った雨が地上に溜まり、その内地球の表面の温度がだんだん下がりが始め、水蒸気が雲になってそこから雨が降ってきたということです。

学習してわかったこと 1
 | 海水の元
 調べた結果、海の水の元は地球の中から生まれたことがわかりました。地球内部の温度が高まり、水素・水蒸気、塩素などを含んだガスや、溶岩を吹き出し始め、熱湯と一緒に吹き出し、地上に初めて水が生まれていたのです。

まとめ
 海水は、地球内部の温度が高まることで生まれた。塩素ガスも流れ込んだため、しょっぱい。海水は、地球が2億歳になって初めて生まれた。

対話の声

- ・小学生のアウトプットの質に驚いた。中高教員は、小学生の学びの変化を認識できているか？(東京)
- ・「教えないとできない、は本当か？」「教えたらできるようになるのか？」を問い続けたい。(東京)
- ・平等、公平にこだわりすぎると進まない。生徒・教員一人ひとりの創意工夫を尊重する文化が重要。(福島)
- ・教員と保護者だと、どうしてもリスクの話になる。トラブルも学びの機会であると考えたい。(神奈川)
- ・どんな成長を願っているかが、どの学齢でも肝要。ICT を使って成長をどう支援するかはその次。(京都)

本プロジェクトへの「ご参加希望」「校内での対話型研修会のご要望」等は、運営事務局 ベネッセ教育総合研究所 次世代の学び研究室(nextlearning@mail.benesse.co.jp)までご連絡ください。

本プロジェクトは、新型コロナウイルスの影響により全国の学校が休校せざるをえなかったことをきっかけに、有志により発足されました。プロジェクトでは、毎週行う学校教育活動に関する対話を通じて、「学校教育の革新と、生徒の気づきと学びの最大化」を目指しています。これまでに全国約 80 校から主に中高教員が参画しています。対話履歴は SNS でも発信しています。フォローください。[Twitter](#) [Facebook](#)